

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202024		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	グループホーム東倉敷 2F ラベンダー		
所在地	岡山県倉敷市新田2605-4		
自己評価作成日	令和 3 年 6 月 7 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370202024-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者がゆったりとした生活ができるような環境づくりに努めている。少しでも満足のいく生活ができるようにご自分の言いたいことや要望などを遠慮なく伝えることができるような雰囲気づくりをしている。日々の会話の中でニーズを把握出来る様に努めている。訴える事ができないご利用者に対しては、何が必要なかを考えとり組んでいる。また、ご家族からの要望も積極的に聞き聞かしている。本年度も昨年同様、個別ケアの実践、職場でいける技術の向上、感染予防・リスクマネジメント・虐待防止、コンプライアンスの強化に取り組んでいる。さらに、医療とこまめに連携をとりながら、安心・安全に過ごせるよう心がけている。現在は新型コロナウイルスのクラスターが発生しないよう尽力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

様々な経験をし、色々の課題を乗り越えてきた歴史ある施設である。長年、前管理者として培ってきた現グループ長が、現管理者をバックボーンから支え、発想力と行動力を活かす運営を望み実践している。だからこそ、身体拘束防止、排泄、入浴などできないことができたときの喜びを我が身に置き換えて、心から喜びを発している職員の姿を拝見した。その喜びをもっと新しいことで見出そうと職員一同が、目が合えばすぐ語り合える体制もあり、介護を「家族から社会へ」任せてしまうものではなく、「家族も社会も」という気持ちで、任されたからこそ非日常的な生きがいを提供しながら、心の距離を近づけていこうとしている施設であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスや研修で、理念の確認を行い、その理念を踏まえてご利用者の介護を行っている。	各フロアの事務所内に掲示。家でしていた事や出来ていた事をどれだけ楽しみを持って続けられるかということに理念を紐解き、カンファレンスで個々に合わせた具体的な対応を考え、地域との繋がりを大切にして、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内での行事(公園の掃除・祭りの準備など)に可能な限り参加している。また、回覧板や広報誌を配布してもらっている。	回覧板を毎月の様に地区役員が持って来られるので、地域交流の継続ができています。さらに、運営推進会議の場や町内の役員の方と個別に意見交換をする流れに代えて来た。地域のグループホームとの親交を深め、地域や行政の最新情報も取得し、より早い情報収集をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れを行ったり、運営推進会議、地域の小ケア会議などで地域の方々と交流を通して発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3日曜日に開催し、町内会の役員や地区の支援センターの方々に参加して頂き、GHの状況説明や意見交換をしている。	書面会議に切り替え、郵送と電話も活用してタイムリーな意見交換をしている。写真とエピソードを盛り込んだ会報誌を同封し、家族が楽しみを感じるコミュニケーションツールとしている。果物の差し入れの申し出を受けたり、ウェブ面会をしたり、看取り期の方の特別面会等、関わりを深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況やサービスの取り組みなどを話し、協力関係を築くようにしている。また、不明点などは問い合わせを行い回答を頂いている。	窓口は、グループ長が主として行き、施設に情報提供を事細かく伝達している。困った事や分からない事があれば放置せず、その都度即時に行政に出向き、FACE TO FACE で意見交換や相談をすることで、何でも話し合える協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、委員会を開催し、現状確認や研修を行い、内容の理解に取り組んでいる。可能な限り、玄関の鍵は開けており、外に出る気配があるときには、声かけをして一緒に外出している。	身体拘束はしない方向を継続している。3ヶ月に1回委員会を開催し、身体拘束防止マニュアルに沿って研修を行っている。特に、事例を基に理解を深め一人ひとり意識改革をしながら確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや研修等で勉強をして、日頃から虐待のきっかけとなるような不適切なケアを行わないようお互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや研修等で話し合い、必要とされる方には活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明のときに不明な点があれば、その都度お伺いし、理解できるようにわかりやすい言葉を使って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。また、面会に来られた時や家族会などのときに、意見や要望等があればお伺いしている。	家族の意見は、面会や差し入れで顔を合わせた時やメールや電話での対応の時に聞き取っている。散歩の要望に対して、実際に散歩する前に家族に報告連絡し、その様子を写真を撮り、散歩の描写がわかるように送付することで絆を深めるとともに、意見や話が弾む様に工夫している。	利用者や家族からの意見は反映できるように良く聞かれているが、もっと信頼関係を深めるためにも、困ったことやできないことの問題点など(コロナ対策や災害対策)の悩みや愚痴をこぼしてはいかが？
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会等だけでなく、意見や提案があるときには、その都度、言ってもらい反映している。従業員相談室を設け、直接言えないことも。	カンファレンスや勉強会の他に、日々の業務の中で気づきやアイデアを逃さない様に確認し、運営に反映出来る様取り組んでいる。また、年に2回の個別面談で、公私の相談を受けて、職員の役職や特性に合った対応をする様に努力している。自然と公平性が行き渡る風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンスで日々の業務中でやってみたいことや、思ったことなどの意見を出し合い、可能なことは実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、カンファレンスの中でGHで働く上で大切な項目について勉強会を行っている。また、キャリアパス研修や敬友会内外の研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターと連携をとったり、他のグループホームの運営推進会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中などで、ご本人の要望や不安を傾聴し、その方の要望に応じていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安な事に対しては、解消できるように説明し、要望には出来る限り沿えるようにし、信頼を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から話を聞き、必要としているものに対して支援していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など個々に出来ることは何かを把握し、本人が出来ることは手伝ってもらっている。職員と一緒にやる事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的ではなく、ご家族の意向をお聞きしながら、共により良い支援が出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご要望をお聞きし、定期的に行くことができるように援助している。現在は感染対策の為外出制限している。	on-line面会や近所を散歩して、新たな馴染みの場所を再発見したり、身近な人や診察時にドクターと話しやすい関係を持って、ストレスやフラストレーションの解消を図っている。施設全体で、家族になった気持ちで、場の関係継続を深めれる体制を構築している。	ここの施設が我が家であるので、新しい身近な馴染みの場と人を作ってはいかがでしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないようにテーブル席を決めたり、職員が間に入って利用者同士が関わり合えるように努めている。現在は感染対策の為、1人1人の距離をかくほしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族からの相談や支援をできる限り行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で何を望まれているかをくみ取れるように努めている。コミュニケーションがとり難い方には、本人にとって必要なことは何かを考えて対応している	意向の把握の困難な方には、家族からの聞き取りで、「自分だったらどうか?」と考え、日ごろのケアから利用者の快と不快を把握して回答に近づけている。居室や入浴ケアの時間など他の利用者目線が無い場所は、絶好のコミュニケーションの場となり、安心して会話ができる配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報を収集している。アセスメントなどの記録からも情報を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や体調がどうであったかを日々の記録に記入し、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しをするときには、本人や家族に意向を聞き、主治医や看護師からも情報を受け取りながらプランに活かすようにしている。	プランは入所時と一カ月以内、三か月毎に作成し見直しをしている。様態急変時や看取り期に入ると、毎月プランを見直し、プランは、本人・家族・職員・医療スタッフで検討し、現状に即した介護計画をチームで作成して、家族が安心できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々の様子や気づいたことなどを記入し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況に応じて、必要なサービスを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店や散髪、歯科と共に、訪問理容や訪問歯科、皮膚科を利用している。現在は不要不急でなければ見合わせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニットでは往診をしてもらっているが、希望されるかかりつけ医に受診できるようにしている。また、整形外科などもご希望の病院が受診できるように援助している。	入居前に、かかりつけ医を選択して頂く。提携医は2週間毎に往診がある。また、24時間、緊急時に対応して頂ける関係を築いる。通院は、職員が介助をするが、近場であれば家族と現場で待ち合わせ、情報共有をしている。訪問歯科から、月に一度、職員に向けての指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるようにこまめに情報交換し、相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、ご本人の状態などを病院関係者と情報交換を行っている。また、退院前にはGHでの生活を送る際の注意点などを聞いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向やユニットでどこまで対応できるか、どこまで対応したら良いのかなどのお話し合いを行い支援しており、希望があれば看取りケアを行っている。	看取りを行っている。入居時に終末期に関する説明をし同意を受けている。年間計画の中に、年1回の看取り研修があり、管理者が講師となって、皆で知識を深めている。看取った後もデスカンファレンスを実施し、次に備え、身寄りのない方の葬儀や火葬場の手配なども行った経緯もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを活用しながら、カンファレンスでどのように対応すれば良いのかを繰り返し確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。消防署の指導を受け、年2回の訓練を行っている。運営推進会議や小地域ケア会議で地域の方と協力出来る様に努めている。	消防署の指示を受けて、年2回、火災と水害を、昼夜を想定して避難訓練をしている。訓練は利用者と一緒にやる。また、事業所は地域の避難場所として受け入れており、備蓄は、3日以上、水と食料を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の価値を下げないように、言葉づかいや語調に気をつけて対応している。また、馴れ馴れしい言葉にならない様に気をつけている。	呼称は、苗字にさん付けを基本としている。利用者が何か失敗されたとしても、声のトーンを下げて、他の利用者の目の届かない所へ、そっと連れて行くなどして、プライバシーを確保している。居室の表札は、希望者だけ標榜している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出、飲み物を選んだりする時など、何かをするときには本人にお尋ねし、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、その方のペースで1日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型など本人の好みに合うように援助している。また、お出掛けする時に、お化粧をすることができるとお伺いし、要望があれば化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けもできることをして頂きながら、利用者のペースで食べて頂いている。その方の好みは何かを把握するように努めている。	ソーシャルディスタンスを配慮した上で、距離を取ってパーテーションをせず、食事を摂って頂いている事で、安全性の確保と食欲の維持に働きかけ、利用者とスタッフのストレス軽減となっている。月に数回は、利用者とは何が食べたいか話し合いながらメニューを考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事や水分の摂取量を記入して状態を把握し、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。月に1度、訪問歯科による技術指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりに合った排泄パターンで援助を行っている。	常時トイレ使用。必要と判断した場合は、家族の了解を得てポータブルトイレを使用。個々の分量や排泄量や季節などを把握して排泄パターンを把握し、さり気ない声掛けを行っている。排泄マニュアルを用いて、時間帯・尿量等データを取り、家族と相談しパンツやパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、牛乳やヨーグルトを提供したり、ホットパットで腸を温めたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、本人の要望にあわせるようにしている。入浴リフトを設置し、その方にあった方法で、安全に安心して気持ちよく入浴できるように援助している。	リフト浴やストレッチャーでシャワー浴を週2回の提供をしている。一人ひとりお湯を入れ替え、好みのシャンプーや入浴剤を使用している。入浴を嫌がる方には、「足浴だけでも、清拭だけでも」と勧め、入浴が達成できた時、自分の事のようにスタッフが喜びを露わにしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めていないが、遅くまで起きられているようであれば休むように声をかけている。日中でもその時の状況に応じてお部屋で休めるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、薬袋に書かれている内容をスタッフ2人で確認し、間違いのないように注意している。また、飲み残しがないように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむなど、出来る事をしてもらっている。買い物に行ったときには、ご自分の好きなものを買うことが出来るように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望を聞きながら買物や散歩に出かけている。初詣やお花見などの行事計画を立てて外出の援助をしている。	医師への受診時は、ひとつのドライブとなり気分転換となっている。散歩もしやすい近所の方とふれあつたして馴染みの関係となり、楽しみとなっている。セラピードッグと戯れていると近隣住民の目に留まり、近所の方も利用者も犬の話題で盛り上がり、蔓延の笑顔がほころんでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替払いを行っている。小額でもお金を持たれている方はご自分で支払いができるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときには電話をかけている。また、電話があった際には取次ぎを行っている。お手紙でも、やり取りが出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花や置物を飾ったりして、居心地よく過ごせるような環境づくりをしている。ユニット内の匂いにも気をつけている。	共用空間は、利用者が少しでも満足できるように、セラピードッグや亀を飼っている。いつでも触れ合うことで、自然と笑顔が生まれ、時間が経つのが早い。利用者と一緒に掃除や犬の躾をする事も大きな日課となっていて、共用空間の居心地の良さが増している。利用者の作品や写真も飾られ、懐かしさが伺える配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルで一人でくつろいだ時間を過ごされたり、利用者同士と一緒にテレビを見たりされて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れているものや好みのものを居室に配置したり、ご家族の写真を飾ったりしながら、心地よく過ごせるようにしている。空調管理にも気を配っている。	居室の窓から見える田んぼや風光明媚な景色が、壁に貼られた絵画やポスターの1枚となり、居室と同化して、知らず知らずの内に居室に調度品の代わりとなっている。利用者は、使い慣れたものを持ち込み、さらに思い出に酔いしれながら、広々とした我が家に溶け込んでいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいように張り紙をしている。ドアの開け方や水の流し方もわかるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202024
法人名	社会福祉法人 敬友会
事業所名	グループホーム東倉敷 3F フリージア
所在地	岡山県倉敷市新田2605-4
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 13 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370202024-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 9 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人 敬友会では、援助を受ける皆様の「生活の継続性」と「自己決定」を尊重することを基本理念としている。自宅で生活していた生活を継続出来るように、ご本人やご家族にお話をお伺いし援助しています。また、感染予防、リスクマネジメント、虐待防止などマニュアルを細かく作成し、職員が理解できるように定期的に研修を行っています。その他の研修計画を作成し、月に1回研修の場を設けて知識や技術の向上に繋がっています。また、犬を施設で飼う事により、入居者様の心の癒しや入居者同士の会話のかけはしになっている。利用者様が穏やかに過ごせる様こまめに声かけを行っています。また、ご家族様にはユニットのご様子を随時ご報告し信頼関係が気付ける様尽力しています。現在は、新型コロナウイルスのクラスターが起こらないよう尽力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

様々な経験をし、色々の課題を乗り越えてきた歴史ある施設である。長年、施設長として培ってきたグループ長が、若い施設長をバックボーンから支え、若い発想力と行動力を活かす運営を望み実践している。だからこそ、身体拘束防止、排泄、入浴などできないことができたときの喜びを我が身に置き換えて、心から喜びを発している職員の姿を拝見した。その喜びをもっと新しいことで見出そうと職員一同が、目が合えばすぐ語り合える体制もあり、介護を「家族から社会へ」任せてしまうものではなく、「家族も社会も」という気持ちで、任されたからこそ非日常的な生きがいを提供するしながら、心の距離を近づけていこうとしている施設であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針を職員にわかりやすく提示している。研修や日々の中で、実践に向けて取り組んでいる。	各フロアの事務所内に掲示。家でしていた事や出来ていた事をどれだけ楽しみを持って続けられるかということに理念を紐解き、カンファレンスで個々に合わせた具体的な対応を考え、地域との繋がりを大切にして、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	川掃除、公園掃除、夏祭り、地域サロン、小地域ケア会議、他のGHでの運営推進会議などの地域行事に参加しているが、今年度はコロナウイルスの為参加できず。	回覧板を毎月の様に地区役員が持って来られるので、地域交流の継続ができています。さらに、運営推進会議の場や町内の役員の方と個別に意見交換をする流れに代えて来た。地域のグループホームとの親交を深め、地域や行政の最新情報も取得し、より早い情報収集をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小地域ケア会議、運営推進会議を通じて地域に対し認知症ケアへの理解や支援を求めている。地域の入居者を優先的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、偶数月の第3日曜日に開催し、勉強会や要望、報告、話し合いの場を設けているが、今年度はコロナウイルスの為、アンケートでの参加としている。	書面会議に切り替え、郵送と電話も活用してタイムリーな意見交換をしている。写真とエピソードを盛り込んだ会報誌を同封し、家族が楽しみを感じるコミュニケーションツールとしている。果物の差し入れの申し出を受けたり、ウェブ面会をしたり、看取り期の方の特別面会等、関わりを深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの要請などには速やかに対応している。不明点などは随時問い合わせをしている。	窓口は、グループ長が主として行い、施設に情報提供を事細かく伝達している。困った事や分からない事があれば放置せず、その都度即時に行政に出向き、FACE TO FACE で意見交換や相談をすることで、何でも話し合える協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHで委員会を設置し、3カ月に1回研修を行って理解を深めている。可能な限り玄関の鍵を開けている。外に出る気配がある時には、声かけをしている。	身体拘束はしない方向を継続している。3ヶ月に1回委員会を開催し、身体拘束防止マニュアルに沿って研修を行っている。特に、事例を基に理解を深め一人ひとり意識改革をしながら確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GHで委員会を設置し、3カ月に1回研修を行って理解を深めている。また、虐待が見過ごされないよう、職員同士で声を掛け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度を学び、必要に応じて対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、施設長や管理者が必ず同席し、契約内容などを本人、家族に説明している。改定等には随時お知らせし、不明点には理解して頂ける様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話などでお伺いしたり、運営推進会議でご意見を頂いており、その内容をみんなの声として外部にも発信している。	家族の意見は、面会や差し入れで顔を合わせた時やメールや電話での対応の時に聞き取っている。散歩の要望に対して、実際に散歩する前に家族に報告連絡し、その様子を写真を撮り、散歩の描写がわかるように送付することで絆を深めるとともに、意見や話が弾む様に工夫している。	利用者や家族からの意見は反映できるように良く聞かれているが、もっと信頼関係を深めるためにも、困ったことやできないことの問題点など(コロナ対策や災害対策)の悩みや愚痴をこぼしてはいかが？
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日常の会話の中で意見交換が行われている。年1回、面談の機会を設け意見の聴取を行っている。	カンファレンスや勉強会の他に、日々の業務の中で気づきやアイデアを逃さない様に確認し、運営に反映出来る様取り組んでいる。また、年に2回の個別面談で、公私の相談を受けて、職員の役職や特性に合った対応をする様に努力している。自然と公平性が行き渡る風土となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	敬友会として、処遇改善制度を確立している。全職員の面談を年1回行い、日頃から、職員の声に耳を傾けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、研修の場を設けている。職員が学習した内容が実際に応用できるように、必要に応じて勤務中にも指導する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどと連絡をとったり、他のグループホームの推進会議などに参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者のアセスメントや日々の生活の中で意見交換を行い、入居者様に寄り添い安心して生活ができる環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からアセスメントを十分に行い、声に耳を傾け考慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞き、出来る限りの援助を行い出来ないことについては交渉し代替を準備、提案する環境作りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たみや机拭きなど入居者様が出来る範囲の軽作業はお声をおかけし、職員と一緒に行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、手紙を送り近況を報告している。必要な際には電話で適宜連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への帰宅や、紅茶教室など関係を維持継続できるように援助をしている。現在は感染対策の為、外出・面会を制限している。	on-line面会や近所を散歩して、新たな馴染みの場所を再発見したり、身近な人や診察時にドクターと話しやすい関係を持って、ストレスやフラストレーションの解消を図っている。施設全体で、家族になった気持ちで、場の関係継続を深めれる体制を構築している。	ここの施設が我が家であるので、新しい身近な馴染みの場と人を作ってはいかがでしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の難しいときには職員が間に入るようにしている。共同で出来る作業を提供し利用者様が孤立しないように工夫する。現在は感染対策の為1人1人に一定の間隔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から連絡があったときには相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションの中や、家族から希望や意向を聞いて把握し、対応している。意思疎通が難しい方には、本人にとって必要な事は何かを考え対応している。	意向の把握の困難な方には、家族からの聞き取りで、「自分だったらどうか?」と考え、日ごろのケアから利用者の快と不快を把握して回答に近づけている。居室や入浴ケアの時間など他の利用者目線が無い場所は、絶好のコミュニケーションの場となり、安心して会話ができる配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など詳しくアセスメントしている。本人や家族から情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子や体調など日々の生活状況を記録し、職員間で情報を共用し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に家族と連絡を取り合い、意見を反映すると共に、プランの説明を行い、プラン内容の理解に努めている。ご本人の意見を交え、今、現在の本人にあったプランを検討している。	プランは入所時と一か月以内、三か月毎に作成し見直しをしている。様態急変時や看取り期に入ると、毎月プランを見直し、プランは、本人・家族・職員・医療スタッフで検討し、現状に即した介護計画をチームで作成して、家族が安心できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々の様子や気づきを記入し、プランの見直しに活かしている。申し送りノートを活用し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを細やかに聴取し、対応可能かどうか事業所全体で判断しながら、対応出来るように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容、訪問歯科、皮膚科などを利用している。現在は感染対策の為、不要不急の外出は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期診療があり、24時間体制で、入居者の健康な生活が出来るように努めている。また、希望するかかりつけ医に受診が継続でき、希望の病院があれば受診が可能である。	入居前に、かかりつけ医を選択して頂く。提携医は2週間毎に往診がある。また、24時間、緊急時に対応して頂ける関係を築いる。通院は、職員が介助をするが、近場であれば家族と現場で待ち合わせ、情報共有をしている。訪問歯科から、月に一度、職員に向けての指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4回看護師は、一人ひとりの状態の把握を行っている。情報を交換している。処置方法などの指導も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、ご本人の状態などを病院関係者と情報交換を行っている。また、退院前にはGHでの生活の注意点などの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時や体調不良時等のタイミングで、ご本人やご家族から今後の意向をお聞きし、事業所で出来る事を説明しながら、時には主治医も交えながら方針の共有に努めている。	看取りを行っている。入居時に終末期に関する説明をし同意を受けている。年間計画の中に、年1回の看取り研修があり、管理者が講師となって、皆で知識を深めている。看取った後もデスカンファレンスを実施し、次に備え、身寄りのない方の葬儀や火葬場の手配なども行った経緯もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やカンファレンスで説明し、急変や事故時の対応を共有し、実践力を身につけるようにしている。また、迅速に報告する事を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、マニュアルをもとに年2回の訓練を実施している。地域への協力の呼びかけも運営推進会議や小ケア会議を通じて行っている。災害時、地域の中でのグループホームでの役割とし、近隣に要救助者が助けを求めた場合、避難所として受け入れる体制に	消防署の指示を受けて、年2回、火災と水害を、昼夜を想定して避難訓練をしている。訓練は利用者と一緒に行う。また、事業所は地域の避難場所として受け入れており、備蓄は、3日以上、水と食料を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、接遇や権利擁護の研修を行っており、利用者を傷つけないように言葉使いに注意している。	呼称は、苗字にさん付けを基本としている。利用者が何か失敗されたとしても、声のトーンを下げて、他の利用者の目の届かない所へ、そっと連れて行くなどして、プライバシーを確保している。居室の表札は、希望者だけ標榜している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服を選ぶ際には、数枚種類を用意し選んでいただくなど、声かえを十分に行い、自分で決めていただくように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで過ごしてもらうことを大切にしている。それぞれの生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から出る際には、身なりを整えていただく。服装や髪形など本人の好みにあうように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のペースでゆっくりと食べていただく。食べたいものがある時には準備している。また、月に数回は外部発注を中止し、自分達でメニューを決めるなど楽しみの1つになっている。	ソーシャルディスタンスを配慮した上で、距離を取ってパーテーションをせず、食事を摂って頂いている事で、安全性の確保と食欲の維持に働きかけ、利用者とスタッフのストレス軽減となっている。月に数回は、利用者とは何が食べたいか話し合いながらメニューを考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、1日の摂取量がわかるようにしている。水分量も記録している。状態に応じては高カロリー食を準備し提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。介助時には口腔内をチェックし、必要に応じて歯科受診や訪問歯科を利用し、治療や口腔内の清潔保持に努めている。月1回、訪問歯科による技術指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにあわせて声をかけ誘導している。	常時トイレ使用。必要と判断した場合は、家族の了解を得てポータブルトイレを使用。個々の水分量や排泄量や季節などを把握して排泄パターンを把握し、さり気ない声掛けを行っている。排泄マニュアルを用いて、時間帯・尿量等データを取り、家族と相談しパンツやパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足になりがちな方には散歩をすすめ、腹部マッサージやホットパックなどをし、腸の蠕動運動を促すような援助をさせて頂き、便秘予防に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や意向を大切に、入りたいときに入れるようにしている。入浴剤を利用して、楽しんでいただく。必要に応じて入浴リフトを使用し安全に安心に入浴できるようにしている。	リフト浴やストレッチャーでシャワー浴を週2回の提供をしている。一人ひとりお湯を入れ替え、好みのシャンプーや入浴剤を使用している。入浴を嫌がる方には、「足浴だけでも、清拭だけでも」と勧め、入浴が達成できた時、自分の事のようにスタッフが喜びを露わにしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、個々に合わせた援助をしている。日中でも、希望時やその時の状況に応じて居室で休む事もできる。季節に応じた寝具を用意し、空調管理を行い、快適に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングし、その都度確認している。必要に応じて薬剤師に確認し、薬についての理解を深めている。薬の変更がある時には、注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水遣り、洗濯物の片付けなど、一人ひとりの能力に応じた役割がある。また、外食や犬の世話、カラオケ、裁縫など個々に合った楽しみがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への買物や散歩を行っている。ご希望の場所や家族宅への訪問には、車を使っている。入居者様の希望や体調を考慮し外出している。現在は感染対策の為、外出は制限している。	医師への受診時は、ひとつのドライブとなり気分転換となっている。散歩もしやすい近所の方とふれあつたして馴染みの関係となり、楽しみとなっている。セラピードッグと戯れていると近隣住民の目に留まり、近所の方も利用も犬の話題で盛り上がり、蔓延の笑顔がほころんでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替払いを行っているが、希望があれば自分のお金を管理できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話はいつでも使用できる。希望があれば携帯電話も可能。家族や友人からの手紙などには、一緒に返事を出したり、年賀状を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理を行い快適に過ごせる様にしている。ホール内に季節の花を用意したり、季節に応じた飾り付けを職員と共に作成している。	共用空間は、利用者が少しでも満足できるように、セラピードッグや亀を飼っている。いつでも触れ合うことで、自然と笑顔が生まれ、時間が経つのが早い。利用者と一緒に掃除や犬の躰をする事も大きな日課となっていて、共用空間の居心地の良さが増している。利用者の作品や写真も飾られ、懐かしさが伺える配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、食事スペースとくつろぎスペースに分けられている。くつろぎスペースでは、気のあった入居者同士でテレビやビデオを観ながら、会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの入居者の好みやなじみのものを生活空間に持ち込み、過ごしやすい空間を作っている。	居室の窓から見える田んぼや風光明媚な景色が、壁に貼られた絵画やポスターの1枚となり、居室と同化して、知らず知らずの内に居室に調度品の代わりとなっている。利用者は、使い慣れたものを持ち込み、さらに思い出に酔いしれながら、広々とした我が家に溶け込んでいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などにその方の状況に応じて休める場所を設けている。また、トイレの場所が理解できるように必要に応じて分かりやすく表示している。		